

2019年10月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 10月えんだより

10月聖句 「ほかの種はいい土地に落ち、芽生え、育って実を結び」

<マルコによる福音書 第4章8節>

夜になると虫の音が聞こえ、秋風を感じる10月になります。猛暑の夏から開放された子ども達が、外に出て行き、遊び声が聞こえますと、何だかホッとした気持ちになります。さて、この10月からは幼児教育・保育における保育料の制度が変わります。4年前の2015年には、子育て支援の法律が変わり、目まぐるしく、子育てに関する枠組みが大きく変わる昨今ですが、子ども達の教育・保育のあり方が転換して、強調されている側面が、見落とされていることを大切に捉えたいと思います。

今月の聖句は、種を蒔く人の例えです。種とは子ども達のことを指します。色んな芽を出していき、命みなぎるものです。道端に落ちた種は、鳥が来て食べてしまう。石だらけの道に落ちたものは、根がはれずに枯れてしまう。そして茨の中に落ちたものは、茨が伸びて、覆い塞いで実を結ばない。

つまり受けとめていく地が、受けとめる側が問われるということです。道端や石など、種をはねつけ、根をはらせない地は子どもが育つことには困難があります。又、子どもが育つ、子どもが生きる力の種を持っているのですが、大人が茨になって、覆い塞がない様に配慮しなければなりません。特に、幼児期は親や大人の愛情、神様の愛の中で伸びる力を吸収し、根をはることがとても大切です。子ども達が自分で生きる力や自分で伸びていく力をつけて、芽生えて、「30倍、60倍・・・」と実を結んでいく土台をつくる必要があります。風雨に晒されても挫折しない力ともいえます。葉をつけること、花を咲かせる成果に心を奪われるのではなく、この地に生える根をしっかりとしたものにしていきたいと願います。

乳幼児期に大人から愛され、守られ、安心して過ごす乳児から子ども達が毎日の生活と個の遊びや集団での遊びを通じて、夢中になって取り組み、遊びを工夫し、友だちと一緒にあって展開して、やりぬいていく力は、やがて忍耐力や自己を抑制する力、目標への情熱、思いやり、協力、自尊心へとつながっていくと信じています。今しかできないことを見つめて、秋の季節を存分に楽しんでいきたいと思います。

年主題 『ことばに満たされて～ひびきあう～』

10月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	やってみよう	ふれあう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>*季節の移り変わりを感じ、身近な自然とであう</li> <li>*体を動かす遊びを喜ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*神さまが与えてくださっている力を出し合い、共に取り組む</li> <li>*疑問や気付いたことを調べたり、考えたりする。</li> <li>*友だちと遊ぶ中で、いろいろな方法に挑戦し、失敗を重ねながら試す。</li> </ul>
讃美歌	ちから 幼児讃美歌II 15	わたしたちのたべるもの こども改 102